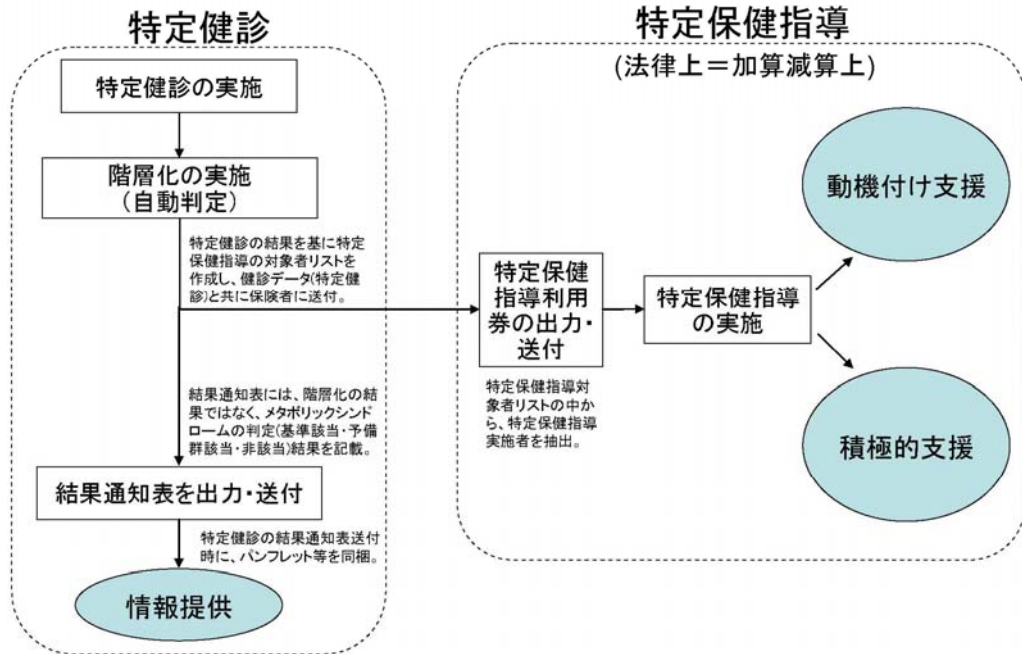


5 特定保健指導の実施

(1) 健診から保健指導実施の流れ

特定健診から特定保健指導への流れ



目標値を達成するために、「特定健康診査・特定保健指導の目標値を達成するために(保健師用)」の流れで健診・保健指導を実施する。

(2) 健診の内容

- 内蔵脂肪型肥満に着目した生活習慣病予防のための保健指導を必要とする者を抽出する健診項目とする。
- 健診受診者にリスクに基づく優先順位をつけ必要性に応じた保健指導レベル別の内容を決定する際に活用する質問項目とする。

【具体的な健診項目】

1. 基本的な健診項目

質問項目、身体計測(身長、体重、BMI、腹囲)、理学的検査(身体診察)、血圧測定、血液化学検査(中性脂肪、HDLコレステロール、LDLコレステロール)、肝機能検査 (GOT、GPT、 γ -GTP)、腎機能検査(血清クレアチニン)、血糖検査(空腹時又は 随時)、HbA1c 検査、血清尿酸検査、(心電図検査、眼底検査、ヘマトクリット)

2. 精密健診の項目

医師が必要としたものを選択

(3) 保健指導対象者の選定と階層化

特定保健指導の対象者を明確にするために、「特定健康診査・特定保健指導の目標値を達成するために(保健師用)」を利用して健診・保健指導を実施する。

○健診受診者(保健指導レベル別に4つのグループに分ける)

①レベル4(医療との連携グループ)

糖尿病、高血圧、高脂血症、虚血性心疾患、脳血管疾患、人工透析等治療中の者

②レベル3(ハイリスクアプローチグループ)

レベル4以外の人で、健診項目が受診勧奨だった者

③レベル2(ハイリスクアプローチグループ)

レベル3以外の人で、内臓脂肪症候群診断者、予備群

④レベル1(ポピュレーションアプローチグループ)

①～④に該当しない人

○健診非受診者

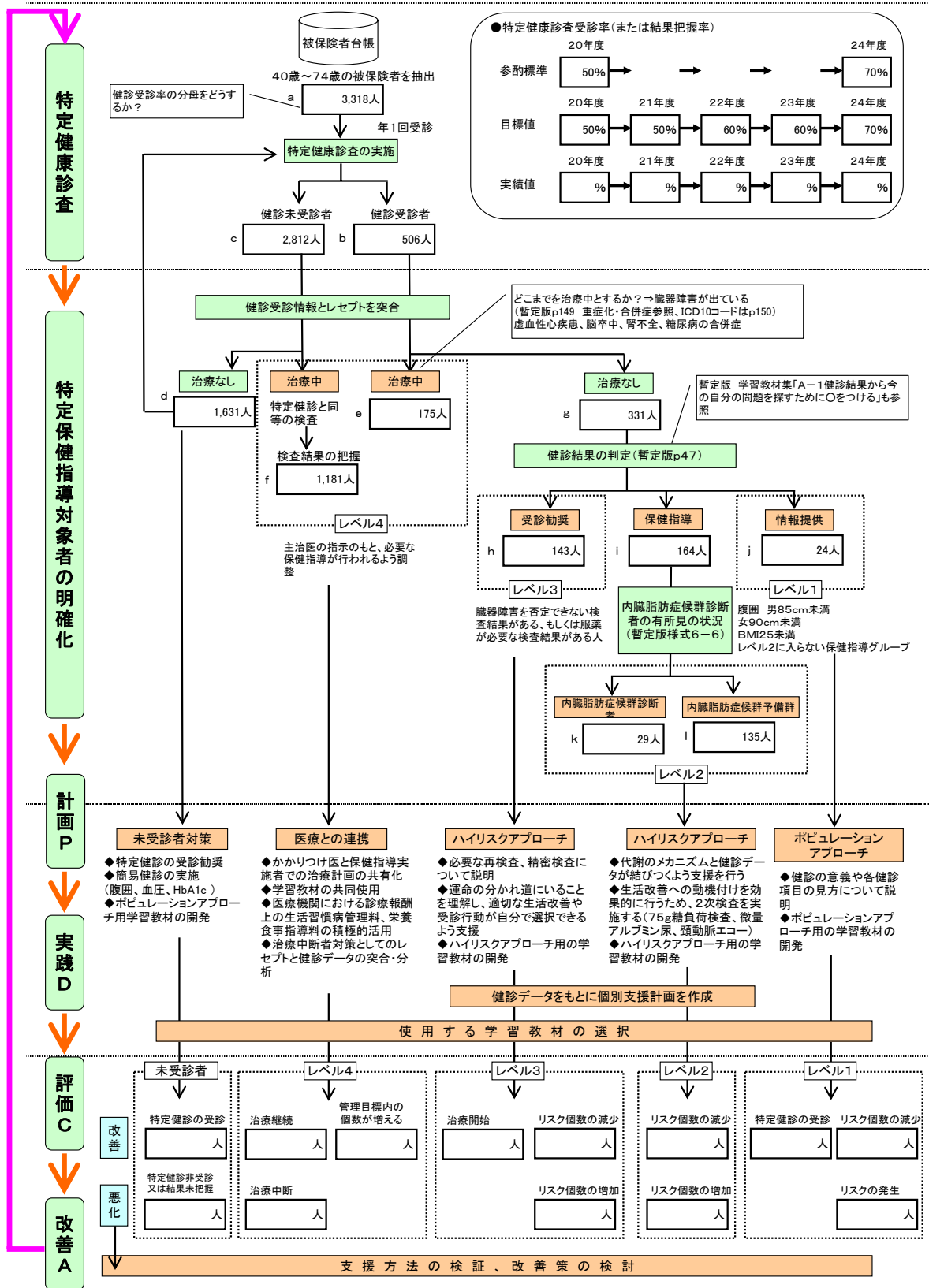
⑤糖尿病、高血圧、高脂血症、虚血性心疾患、脳血管疾患、人工透析等治療中の者は①と同じ扱い

⑥⑤以外の者

(4) 要保健指導者の優先順位・支援方法

要保健指導者の優先順位・支援方法を次のとおりとする。

特定健康診査・特定保健指導の目標値を達成するために(保健師用)
健診から保健指導実施へのフローチャート(暫定版p149のPDCAサイクルバージョン)



○優先とした理由、支援方法

優先順位	保健指導レベル	理由	支援方法	求められる能力・資質
1	③レベル2	特定健診・保健指導の評価指標、医療費適正化計画の目標達成に寄与するグループである	<ul style="list-style-type: none"> ◆代謝のメカニズムと健診データが結びつくよう支援を行う ◆生活改善への動機付けを効果的に行うため、2次検査を実施する(75g糖負荷検査、微量アルブミン尿、頸動脈エコー) ◆ハイリスクアプローチ用の学習教材の開発 	必要な検査の説明、学習教材を使い支援できる能力が必要。
2	②レベル3	病気の発症予防・重症化予防の視点で医療費適正化に寄与できると考えられる	<ul style="list-style-type: none"> ◆必要な再検査、精密検査について説明 ◆運命の分かれ道にいることを理解し、適切な生活改善や受診行動が自分で選択できるよう支援 ◆ハイリスクアプローチ用の学習教材の開発 	体のメカニズム+疾患の理解をし支援出来る能力が必要。
3	未受診者対策	特定保健指導の実施率には寄与しないが、特定健診受診率向上、ハイリスク予備群の把握、早期介入により、医療費適正化に寄与できると考えられる	<ul style="list-style-type: none"> ◆特定健診の受診勧奨 ◆簡易健診の実施(腹囲、血圧、HbA1c) ◆ポピュレーションアプローチ用学習教材の開発 	レベル3の資質の上に経験を生かして支援出来る能力が必要。
4	①レベル1	特定健診受診率向上を図るため、健診受診・自己管理に向けた継続的な支援が必要	<ul style="list-style-type: none"> ◆健診の意義や各健診項目の見方について説明 ◆ポピュレーションアプローチ用の学習教材の開発 	学習教材を利用して支援。
5	④レベル4	すでに病気を発症していても、重症化予防の視点で、医療費適正化に寄与できると考えられる	<ul style="list-style-type: none"> ◆かかりつけ医と保健指導実施者での治療計画の共有化 ◆学習教材の共同使用 ◆医療機関における診療報酬上の生活習慣病管理料、栄養食事指導料の積極的活用 ◆治療中断者対策としてのレセプトと健診データの突合・分析 	生活習慣病に関する各学会のガイドラインを熟読、+経験を生かして支援出来る能力が必要。